

学校だより

眺洋山 10月号



2020年（令和2年）9月25日
福山市立常石小学校

めざす子どもの3つの姿 「**自立**・**共生**・**自己実現**」



育て科学の目！自分の疑問を追究しよう！

音楽鑑賞会開催！ プロが奏でる美しい音色に感動

9月14日、保護者の方のご支援をいただき、音楽鑑賞会を開催しました。この日来てくださったのは、ヴァイオリン奏者の上里はな子さん、チェロ奏者の奥泉貴圭さん、そしてピアノ奏者の松本和将さんです。どの方も、華々しい経歴を持っておられ、プロとして活躍しておられます。

今回は、子どもたちに合わせ、「崖の上のポニョ」や「子犬のワルツ」、そしてショパンの曲などを演奏してくださいました。また、ヴァイオリンとチェロの音域の違いなどを感じることでできるプログラムも実施してくださいました。

子どもたちからは、

- 「プロの演奏が聴けてうれしかったです」
- 「私もヴァイオリンがやりたくなりました」
- 「初めて近くで聞いて感動しました」
- 「3つの音が重なってとてもきれいでした」
- 「楽器の魅力がわかりました」

といった声が聞かれました。

コロナウィルス感染症もあり、本物を体感する機会が減っている状況ではありますが、このような機会を頂けたことは嬉しい限りです。ご尽力いただきました皆様に感謝申し上げます。

皆様ありがとうございました。空き缶での収入 20,038 円

本校の体育館下には、たくさんの空き缶が集められています。これは、地域や保護者の方々が、学校の教育活動への支援として集めてくださっているものです。集まった空き缶が、いっぱいになるたびに業者に持って行っていたのですが、昨年度と今年度のものを合わせると、20,038円となりました。本当にありがとうございました。これらのお金は、教室の備品等、教育活動の充実のために使わせていただきます。今後ともよろしく願いいたします。

運搬用一輪車を修理していただきました

農具倉庫に壊れた運搬用一輪車があったのですが、それを見た保護者の方が、溶接し、直してくださいました。またその運搬用一輪車に、別の保護者の方がとても素敵なペイントをしてくださいました。子どもたちも、「あ、どうしたのこれ？クジラがいるよ」と驚いていました。

いつも学校のこと、子どもたちのことを考え、様々な形でご支援、ご協力いただけることに感謝です。今後ともよろしく願いいたします。



「何が入っているのでしょうか？」

先生がある袋を子どもたちに見せます。入っていたのは、豆電球やモーター、プロペラ、導線、乾電池などなど。子どもたちの目は興味津々。

「1人に1セットずつあるので、自由に遊んだり試したりしていいよ。」

先生の言葉に子ども達は大喜び。学びのスイッチが入ります。

学び始める子ども達

「豆電球どうやったらつくんだっけ？」「どうつなぐの？」

「ミニ扇風機ができたよ！」「ぼくのはスイッチ付き！」

子ども達は、思い思いに電気回路づくりに取り組みます。わからない子はわかる子に聞いて作っていきます。先生はその様子をじっくり観察。

すると、次第に子どもたちが、あることを試し始めます。

「あれ、電池反対にすると風が反対からくるよ」

「もっとつないだら、プロペラすごく回るんじゃない？」

電流の流れる向きや、直列つなぎにつながる疑問です。

一通り遊んだ後は、先生が加わり、みんなで話し合いながら、わかったことや疑問に思ったことを整理。そして一人ひとりの問いを設定していきます。例えば、こんな感じです。

- ・電池を多くすると、モーターの回る速度は変わるのか。
- ・モーターの大きさが違って回る速さは変わらないのか。

問いを追究。どうすれば確かめられるのか

問いを設定したら、仮説を立て実験スタート。そこで、先生が子ども達に投げかけます。

「回る速さを確かめるといっているけど、どうやったら速くなったり遅くなったりしたことが証明できるかな？数値とかで表せないかな？」

子ども達は考え始めます。

「回る速さが速くなれば、プロペラの場合は、風が強くなるよね。風を起こして、軽いものが移動した距離で比べるといいんじゃないかな。」

「電池1個、2個、3個それぞれの場合でやってみよう。」

子ども達は理科の実験で大切な概念を自ら獲得していきます。先生は、その姿をクラス全体に広げ、一般化していきます。

「実験をするときには、条件をそろえ、数値などに表して比べるといいんだね。」

新たな理科的な見方、考え方を獲得した子ども達。自分達の実験に反映させていきました。子ども達の問いから学びをスタートさせる。子ども達の気づきから学びを深めていく。

常石小学校では、そんな授業をこれからも作っていきたいと思います。



様々な回路を試した子ども達



分かったことや疑問をみんなで整理



袋が何cmたなびくかで風の強さを測定

第 1 回対話の会 ~テーマ「学びについて」~

9月10日、初めてとなる対話の会を実施しました。参観授業、学級懇談会の後の日程となりましたが、それでも多くの方にご参加いただきました。ありがとうございました。

会でお話したことも含めて、当日の様子をお伝えいたします。

今、子どもたちに必要な力とは

最初に、学校から「学びについて」というテーマでお話しさせていただきました。以下は、その内容です。

- ・現在の子ども達を取り巻く状況は大きく変化している。
- ・子ども達は長寿になり、変化も予想できない時代を生きる。
- ・そのような状況において必要となる力は、人生の様々な局面で「自分なりの答えをつくる力」である。

「自分なりの答えをつくる力」の育成に向けて

続いてお話ししたのは、常石小学校でどのような力を育成しようとし、どのような取組をしているかという内容です。

- ・学校では、めざす子どもの姿とめざす21世紀スキル&倫理観というものを設定している。
- ・教科の学びである「ブロックアワー」でもその力の育成のため工夫をしている。
- ・また、社会科等では、単元にとらわれず自分の興味あることから取り組めるような授業を行っている。興味ある内容を学ぶことで、学びの楽しさを味わってほしいと考えている。

なお、学校からの話の最後には、実際の子ども達の様子を3分程度にまとめた映像を見ていただきました。

保護者が見たイエナプランの学校「大日向小学校」

続いて、長野県にある私立のイエナプラン学校「大日向小学校」を視察した保護者の方が、そこで見た学びの様子を、写真を交えてお話してくださいました。最後には、「見たことのない学びの様子にびっくりしたけど、子ども一人ひとりに合った学び方は貴重だと思った。」「みんなが、学校が楽しいと思ってきているのがよく伝わった。自分のやりたいこと、やるべきことが見えてくる学校で、それが常石にもできるのありがたいと思った。」と語ってくださいました。

最後は、参加者でグループに分かれて対話

最後は参加者で小グループをつくり対話しました。最近の子ども達の変化を語ってくださる方もいれば、家でも学校でやっていた探究を続けている子どもの姿を語ってくださる方もいました。また、常石小学校での学びの様子がよく分かったという声も聞かせていただきました。

今後も対話の会は続けていく予定です。引き続き、ご参加のほど、よろしくお願いいたします。

当日説明に使用した資料

2007年に生まれた日本の子どもの半数が、**107歳**よりも長く生きる

厚生労働省「人生100年時代構想会議」

変化も予想できない時代を生きる

人生のさまざまな局面で「自分なりの答えをつくる力」が必要

常石小学校の教科の学び「ブロックアワー」

- ・子どもが1週間の学習計画を立て、自分で学び続ける力を付けていく学習のスタイル。
- ・ 自立学習やインストラクション（教師による指導）、学年の内容を超えた共通の問いについて考えることなどを、組み合わせて行う。



「自分なりの答えをつくる力」の育成に向けて

単元にとらわれず、自分の興味ある内容から取り組める自己選択可能な、社会科の授業の実施（6年）

自分の好きな時代を選択する。

選んだ時代で一番興味を持ったこと、疑問に思ったことをテーマとして取り上げ、形式を工夫してまとめる

自分の興味ある内容を学ぶことで、学びの楽しさを



視察報告をされる保護者



小グループで対話